



考えて

やってみて

次の意欲へ

創造・挑戦・感動

篠山東中
学校だより
3月号 No.12

つながり

3学期も半ばを過ぎ、今年度の教育課程も残すところあと僅かとなりました。三寒四温を繰り返しながら、季節は確実に春へと歩みを進めています。来週火曜（17日）に卒業式を控え、生徒たちの成長とともに、学校もまた新たな節目を迎えています。

今年度の卒業生は35名。昨日、公立高校の一般入試を終えたばかりで、全員の進路先が決まるのはもう少し先になります。職員一同、一日も早く、35名全員の進路先が決定することを願っています。

さて、私たちは省略して卒業式と呼びますが、正式名は「卒業証書授与式」です。名前の通り、式のメインは卒業証書授与。つまり、主役は35名の卒業生です。学級担任による呼名のあと、一人ひとりに学校長が証書を手渡します。

本校のような小規模校では手渡し当たり前ですが、生徒数の多い学校では、式の進行上、代表授与などの形をとるところもあります。

ところで、皆さんは卒業証書に書かれている内容を知っていますか。小学校の卒業証書に何が書かれていたか覚えていますか。

中学校の卒業証書には、次のような内容が書かれています。

順に、授与番号、名前、生年月日、証書文、卒業年月日、学校名、学校長名となります。

今年度の授与番号は、第1707号～1741号で、卒業台帳（永久保存の台帳）に、皆さんの名前が加わります。

この数字は、これまでに1741名（R7年度卒業生含）の生徒が篠山東中学校を卒業したことを表すと同時に、皆さん一人ひとりの**存在の証**でもあります。つまり「卒業証書」は、皆さんが唯一無二の大切な存在であることを証明する尊い証書なのです。

証書文の内容は右の通り ⇒ 「**上記の者は本校の課程を卒業したことを証する**」

ちなみに、下線部の**課程**というのは、学習指導要領によって定められた授業時間（時数）を表しています。



小学校教育課程（6年間）5,645時間
中学校教育課程（3年間）3,045時間
※義務教育課程（9年間）**8,690時間**

○卒業生の皆さんは、義務教育9年間で、**8,690時間**の授業を受けたこととなります。

輩出した卒業生の数は1741名。同じ地域に生まれ、同じ校舎で学んだという事実が、名前も顔も知らない卒業生とのつながりを生み出します。そして、来年も、再来年も、その先の未来へも、その人と人が紡ぐつながりは途切れることなく広がり続けていきます。

いよいよ来週は本番です。多くのご来賓、保護者、地域の方のご臨席を賜り、伝統ある篠山東中学校の『第28回卒業証書授与式』を挙ります。

儀式（イニシエーション）が持つ本来の意味は、再生、脱皮、開始（始まり）です。儀式を通して、全校生徒が、また一段と大きく成長してくれることを願っています。

第28回 卒業生の皆さんへ

卒業気分をじっくりと噛みしめる間もなく、気がつけば「卒業」。公立の一般入試もあって、落ち着く暇もなかったのではないのでしょうか。

中学3年間って、本当に早いですね。こんなことなら、もっと、いろんなことに挑戦しておけばよかったと、今になって後悔している人もいるかもしれません。でも、もう後には戻れません。前を向いてください。すぐに4月がやってきます。次なるステージに向け、気持ちを切り替えてください。皆さんの中には、この丹波篠山の地（故郷）を離れる人もいます。さみしさに打ちひしがれるかもしれませんが、でも、自分で選んだ道です。一つひとつ整理（心の整理）をして、次なるステージに一步を踏み出してください。その整理（心の整理）の過程で、決して忘れてはならないことがあります。それは、「感謝の心」です。

皆さんは、当たり前卒業の日を迎えられたわけではありません。長きに渡り、皆さんの陰日なたとなって成長を見守り、支え、導いてくださったご家族をはじめ、地域の方や先生方、身近にいる友だちや後輩など、多くの方がいたからこそ、今の自分があるのです。そのことを、この人生の節目に、改めて感じてください。

どうか、その多くの方への感謝の気持ちと、ありがたい自分に向かう強い決意を忘れず、自分を信じ、仲間を信じ、未来に挑戦する勇気を持ち続けてください。そして、その挑戦の先にある感動を、ぜひ、また新たなステージで、新たな仲間と味わってください。卒業生の皆さんの未来に、幸多からんことを願っています。

在校生の皆さんへ

いよいよ来週17日（火）に、篠山東中学校第28回目の卒業式を迎えます。

「卒業する」という意味では、皆さんは当事者ではないかもしれませんが、式に参列し、先輩（卒業生）とともに「卒業式を創る」、最後の大きな行事を「成功に導く」という意味では、まさに在校生の皆さんこそ当事者といえます。

卒業式や入学式は、中学3年間で一度しかない、最初で最後の学校行事です。このような行事を儀式的行事といいます。儀式的行事の目的は、学校生活に有意義な変化や折り目をつけ、厳粛で清新な気分を味わうこととされています。

皆さんが多くの先輩方の祝福を受け、東中の門をくぐってきたように、来年、再来年は、新入生を迎えると同時に、卒業生としても後輩に送り出してもらう立場になります。そして、この営みは、未来永劫続いていきます。

在校生の皆さん、お世話になった先輩方と創る最後の学校行事です。成功に導く当事者として、ぜひ、準備や参列への心構えをよろしく願います。そして、卒業式という厳粛な儀式に参列することで、在校生の皆さん自身も、学年の節目において、この一年を振り返り、新しいスタートに向けて意欲を高めてください。期待しています。

全校生の皆さんへ

職員玄関側に校訓が刻まれた石碑があるのは知っていますね。開校当初の資料（『校訓』制定の歩み）に、この3つの校訓「創造」「克己」「愛郷」に込められた思いが綴られていましたので、この節目に紹介します。

「基礎基本を培いながら、新しいものを創り出し、自分の弱い心に打ち勝ってほしい。ふるさとを愛することは母校を愛し、人を愛することにつながる」〔校訓制定委員会 奥田齋委員長様より〕



創立5年目に制定

この学校だよりも載せている「校章」についてもふれておきます。

「デザインは、当時公募された76点の作品から選ばれたもの。『東』を前面にあしらい、篠山を示すササの葉6枚で『中』が表現されています。篠山東中は6小学校区をエリアにしていることから、6枚の葉を使用されたとのこと。デザインを採用された木戸さんは、一枚の葉では何も表すことはできないが、6枚集まることで、はじめて『中』という一つの文字を表現できる。この6枚のササの葉の心を理解し、学校に誇りが持てる人になってほしい。」と説明。〔H9.10.24 丹波新聞より抜粋〕